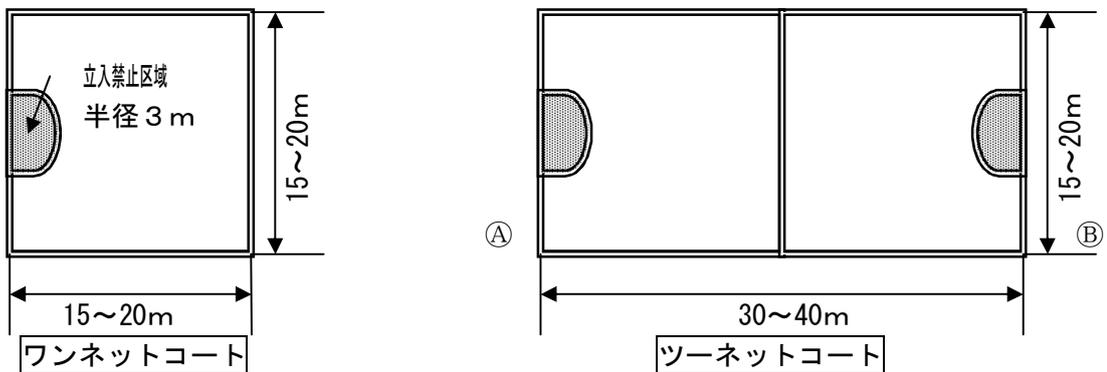


チ ュ ッ ク ボ ー ル

【歴史】

ペロタ (pelota) とハンドボールの特徴を取り入れ、スイスの生物学者ブランド博士により考案。日本には 1980 年、台湾師範大学の方瑞民教授が紹介。最大の特徴は、相手チームに対する妨害行為がいっさい禁止されていること。

【コート】



ネットのまわりの立入禁止区域は、半径 3m の半円を幅 5cm の線で区画する。
エンドラインの中心に 95cm~100cm 四方のネットを立てる。
コートは明瞭な線で区画する。区画線はコートにふくまれる。

【ボール】

ボールは周囲が 55cm~60cm (22~23.6 インチ)、重さ約 450g (約 1 ポンド) のものとする。
(ハンドボール 3 号球)

【ネット】

ネットの大きさは、95cm~100cm × 95cm~100cm のものとし、ネットの角度は 60° とする。

【チームおよび競技者】

- 1) ワンネットの場合は、1 チーム 9 名とし、コート内には 6 名が出場する。残りの 3 名は交替競技者とする。
- 2) ツーネットの場合は、1 チーム 12 名とし、コート内には 9 名が出場する。残りの 3 名は交替競技者とする。
- 3) 各チームの競技者 1 名を主将とする。
- 4) 各チームは試合開始時少なくとも 4 名はいなければならない。4 名のままで試合を終わることができる。ただし 1 チームの競技者が 3 名以下になると試合は中止となる。
- 5) 競技者の交代は得点後だけ行うことができる。誰と交替しても、何回交替してもかまわない。

【競技方法】

試合時間

試合は 3 ピリオドとし、各ピリオドの間に 5 分の休憩をとる。時間は下記のとおりとする。

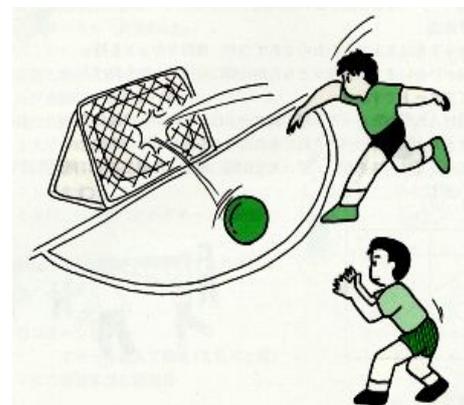
ピリオド 対象	第1 ピリオド	休憩	第2 ピリオド	休憩	第3 ピリオド
中学生以上の男子	15分	5分	15分	5分	15分
中学生以上の女子 小学生男子・高齢者	10分	5分	10分	5分	10分
小学生女子	7分	5分	7分	5分	7分

試合開始

- ・試合開始前に両チームともサイドラインを背にして整列し、互いに握手をする。その後両チームの主将がトスまたはジャンケンを行ない、その勝者のチームが次の方法でスローインをして競技を開始する。(ワンネットの場合)
- ・ネットのある反対側のエンドラインの外からスローインする。(ツーネットの場合)
- ・Ⓐ または Ⓑ のネット際のコート外からスローインしてはじめる。スローイン後の第一シュートは、ボールがセンターラインを越えれば、どちらのネット(Ⓐ または Ⓑ) にシュートしてもよい。

ボールの操作(第9条)

- ・競技者がボールを操作するのに許される行為は次のとおりとする。
 - 1) 両手、両こぶし、頭、胴体などを使って、つかむ、打つ、投げる、押し進める。
 - 2) ボールを持って3歩歩くこと。(コートに両足または片足をつけてボールを受けると1歩歩いたとみなす)
 - 3) ボールを3秒まで持つこと。
 - 4) 一方の手からもう一方の手へボールを移すこと。(途中でボールの接触がなくてもよい)
 - 5) コートにひざまづいたり、横たわったままプレーすること。
- ・競技者がボールを操作するのに許されない行為(反則)
 - 1) ボールをコートや空中でドリブルすること。(ジャググル、ファンブルは空中でのドリブルとみなされず許される)
 - 2) ボールを脚(足をふくむ)でけること。
 - 3) ボールを3回を越えてパスすること。(スローインはパス1回とは数えない)
 - 4) ボールを持ったままコート外に出ること。
 - 5) 相手チームの競技者に故意にボールを投げつけること。
 - 6) パスを受けた後ボールを落とすこと。
 - 7) 相手チームがパスしたボールをとること。
 - 8) 自チームがシュートしたボールのリバウンドをとること。
 - 9) 相手チームがボールを持っているとき、いかなる方法でも妨害すること。



立入禁止区域に関する反則(第10条)

- 1) リバウンドボールは、立入禁止区域内で触れてはならない。
- 2) ボールを持っている競技者は立入禁止区域内に入ってはならない。

・反則に対する処置

- 1) 第9条の反則に対しては、反則を犯さなかったチームに、その反則のあった地点からフリースローが与えられる。ただし、フリースローから直接シュートすることはできない。
- 2) 第10条の反則に対しては、反則を犯さなかったチームにその反則があった地点から最も近い立入

禁止区域ラインの外からフリースローが与えられる。ただし、この場合も直接シュートできない。

3) 故意に反則を犯した競技者は、記録され3度そのような反則を犯すと退場させられる。

得点

次の場合それぞれ1点の得点が与えられる。

- 1) リバウンドボールを相手チームがとれなかったとき、シュートしたチームに与えられる。
- 2) リバウンドボールが、立入禁止区域内に落下したとき、相手側チームに与えられる。
- 3) シュートしたボールがネットにあたらなかったとき、相手側チームに与えられる。
- 4) リバウンドボールがコート外に落下したとき、相手側チームに与えられる。
- 5) リバウンドボールが、シュートした競技者に当たったとき、相手側チームに与えられる。

プレー再開

(ワンネットの場合)

- ・ ネットと反対側のエンドラインの外から、得点をしなかったチームの競技者がスローインをして再開する。

(ツーネットの場合)

- ・ 得点のあったネット側のエンドラインの外から、得点をしなかったチームの競技者がスローインをして再開する。この場合、最初のシュートは、ボールがセンターラインを越えればどちらのネットにしてもよい。

相手チームに対する行為

- ・ 相手チームの者は、パス、シュートあるいはボールをキャッチしようとしている競技者を妨害してはいけない。
- ・ 静止して立っていれば、コートのもどこにいてもかまわない。両足が同じ場所に留まっていて、体と腕がどの方向にも動いていないときは静止とみなす。

ツーネットの場合のシュートの制限

ツーネットの場合は、同一ネットへのシュートは、両チームで連続3回までとし、4回目は、反対側のネットへしなければならぬ。ただし、フリースローが与えられた後は0回に戻る。

シュートしたボールがフレームに当たった場合

- 1) フレームに当たったリバウンドボールが相手チームのメンバーに触れることなくコート内に落ちた場合は得点に関係なく、ボールが落ちた地点で相手チームのボールとなる。相手チームがとれば、そのままプレーを続行する。
- 2) フレームに当たったかどうかは、すべて審判が判断する。
- 3) 相手チームがミスキャッチした場合も1)と同様である。